

異文化への憧憬～さるく旅から (①犬のいる暮らしを愉しむ)

欧米など狩猟と牧畜の伝統のある社会では、牧羊犬、フランダースの犬とか、雪中遭難救助犬など働く犬(仕事犬)から愛玩犬「家族の一員」「一緒に暮らすパートナー」になった。欧米では仕事犬だったので、厳しく躾けられているし、マナーがよく「犬と一緒にいたい」という人間の願望に寛容である。交通機関、ホテル、レストラン、映画館など、どこにでも人と犬は一緒にいる。日本では江戸時代から厳しいしつけはご法度、番犬は家庭犬、愛玩犬として飼育したので、犬のしつけにあまいし、農耕民族、島国の日本人は犬に優しい。欧米では、ペットの店頭陳列販売は禁止か自粛されているので、店で予約するか、インターネットなどで購入する。特筆すべきは、ドッグズホームなど動物保護施設から引き取るのが普通の方法だそうだ。英独は、犬猫の殺処分率がゼロの国というが、諸事情で手離す人も多い。しかし、動物保護施設に収容された犬の9割は新たな飼い主のもとで生活する。里親として引き取るには家庭訪問等による厳しいホームチェックもあり、犬を引き取ることを認められた飼い主は一種のステータスになるそうです。



日本では貨物室預かり。小型犬まで同乗可能。ベルゲンからオスロへ行く航空機内



レストラン、回転寿司店。フードをやるのを人が我慢することが必要(シュトゥットガルト)



リードなしで公園を散歩する犬。他の犬とすれちがってもお互い無視して通り過ぎる。(オスロ)



犬は人間の最良の友達。犬を怖がる子供になるか、怖がらない子供になるかは、周囲の大人いかにかかっている。(シドニー)

ペットと旅行するには、日本は制約の厳しい国である。ペットのいる世帯は、ペットのケアの心配から旅行に行きづらいという状況にある。旅行好きの人は、ペットを買わない選択をしていることが多い。犬は飼い主になつので、日頃から親しい人がいないとストレスをためやすい。このため、犬が入れる集客施設、交通機関、宿泊施設を増やさないと、旅行者は増えない。ペット保持者の旅行機会創出の潜在需要は大きい。ペット同伴可能なホテルはロンドンやパリで60%以上、ホテルの星の数が多いほど、好意的で寛大だと言われる。佐世保のホテルは欧米のようにベッドのそばにペットの寝床があるタイプ。食事の場所は人とは別という所が多かったが、最近では、ペットがレストランのテーブル下で待機できるタイプ、客別に個室で仕切られたタイプ、一戸建ての部屋で自炊ができるタイプなど、多様な宿泊施設が増えてきたが、長崎県にはない。ペット同伴ホテルの成功の秘訣は提供される料理も最高ということにあると思う。



地下鉄車両内。周囲の人は平然。ロンドンの地下鉄開業は1863年



デパート内。客は多いが、店の前でおとなしく親子で待っている。(ストックホルム)



「動物の家」(シェルター)のペットたちの散歩、老犬が多い。寄付金箱もある。(ベルリン)



旅は犬連れ。列車内は多い。フードを食べている犬もいる。(オランダ)

発行 / (公財)長崎県国際交流協会

〒850-0862 長崎県長崎市出島町2番11号

TEL 095-823-3931/3929 FAX 095-822-1551 Eメール nia@nia.or.jp

http://www.nia.or.jp

公益財団法人へ移行のお知らせ

当協会は、このたび、公益法人制度改革に伴い、長崎県知事より公益認定を受け、本年4月1日に「公益財団法人長崎県国際交流協会」として新たな一歩を踏み出しました。

今後も、国際交流、国際協力及び国際理解に関する事業の実施を通じて、世界の人々と共に生きる国際的に魅力のある地域づくりに一層力を尽くしてまいりますので、引き続き御協力・御支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

お家で！家族みんなで！国際交流☆ ホームステイ・ホームビジットしてみませんか？

当協会では、県内の大学等に在籍する留学生などに日本の一般家庭生活を体験する機会を提供し、長崎で良い思い出を作ってもらうために、ホームステイ・ホームビジット事業を行っております。現在27家族が登録してくださっています。小さなお子様がいる家庭、留学を考えている学生さんがいる家庭、定年退職をしたご夫婦など、様々な環境のご家族がいらっしゃいます。

平成23年度もたくさんの方にご協力いただき41名の留学生がホームステイをしました。

実際にホームステイを経験した留学生の皆さまから「楽しかった」という感想をいただくのはもちろんのこと、ホストファミリーの皆さまからも、「初めて受け入れて留学生のイメージが変わった」や「その後も交流が続いて楽しい」などの良いご報告をいただいております。

しかし、初めて受入をされるご家庭は、部屋の間取り、お風呂・トイレ環境、食事など様々な心配が尽きないようです。例えば「個室がないので、子供と同じ部屋で寝てもらうけど大丈夫？」

「特別な料理は作れないけどいいかしら？」「家庭の中だけじゃなく、観光にも連れていけないといけないの？」「外国語が得意じゃないけど」など…。もちろん特別な対応をする必要はありません！個室を用意する必要はありませんし、一緒に手巻きずしやお好み焼き等を作ったり、辞書や筆談で会話をしたり。普段通りの日常にお迎えすることが大切だと思います。きっと、ホストファミリーより、お世話になる外国人のほうが緊張しているはずですよ。

皆さんも、気軽に楽しく自宅国際交流してみませんか？

☆ホストファミリーにご興味のある方は、協会までお問い合わせください☆

留学生宿舎オリエンテーション

当協会では、2011年10月より県公舎平和町アパートを一部リフォームし、県内の留学生のための宿舎として運営を開始しました。現在12戸に25名の中国、韓国、アメリカなどの留学生が入居しています。2012年4月から新しい入居者が増え、4月13日(金)にオリエンテーションが行われました。住まいの設備、備品の取扱やごみの分別、防災上の注意、町内会や近所の人たちとの関わり方など、今後の日本での生活を快適に楽しく過ごすための心得について説明がありました。また、同じ敷地で生活していても、普段あまり顔を合わせることの少ない入居者同士の交流の場にもなり、みんなで楽しく日本の生活マナーなどについて学びました♪



草の根国際交流支援事業について

公益財団法人長崎県国際交流協会では、民間団体が行う国際交流支援事業を支援することにより、地域の国際化を推進することを目的とし、助成金を交付しています。

選考委員会を経て平成23年度助成金が交付されたのは、NPO法人長崎文化協会、NPO法人長崎市美術振興会、ヤングアート実行委員会、学生国際NGO BOATの4団体です。

平成24年度については、2つの団体に助成金の交付が決定しました。現在、追加募集を行っております。

■受付期間 平成24年4月2日～6月末日

■助成事業の実施期間 平成24年7月1日～翌年3月13日

詳しくはHPをご覧ください。http://www.nia.or.jp/

第4回 ～語り合おう in Nagasaki～

外国人による日本語弁論大会出場者募集！(締切10月15日)

平成24年11月17日(土) 14時から長崎外国語大学ホールにて、外国人による日本語弁論大会が開催されます！皆さん、この機会に是非参加してみませんか？昨年は、中国、韓国、タイ、ベトナム、台湾の方が応募して下さいました。大会後は、一般の来場者の方との交流会も行いますよ！長崎で新しい思い出を作りませんか？

○開催日時 平成24年11月17日(土) 14時～17時

○場所 長崎外国語大学 ホール

○応募方法 所定の申込用紙、スピーチを録音したCD又はテープ、原稿を当協会まで提出して下さい。応募用紙は、協会のホームページからダウンロード可能です。

(※ 応募は6月から開始予定です)

☆新しい国際交流員が仲間入り☆

皆様、はじめまして。中国上海市から参りました朱浩昱(シュコウイク)です。ハルビンの出身です。この度、国際交流員として長崎県国際課で働くことになりました。宜しくお願い致します。

大学時代、日本語を専攻していたので、日本文化が好きになり、本当の日本を自分の目で見ながら、実際に生活してみたいなりました。数年前留学生として桜美林大学に留学したことがあり、その後、日野市にある日本企業に勤めたことがあります。今回8年ぶりに日本の長崎に来ることができ、すごく幸運です。これからいろいろな文化交流を通して、多くの方々と仲良くなりたいので、宜しくお願い致します。



いろいろな国のことばのお話会

今年度も長崎市立図書館と一緒に「いろいろな国のことばのお話会」を開催いたします。外国人の方が、中国語・韓国語・英語で子供たちに絵本の読み聞かせをします。

また、母国の手遊びも披露します。昨年は、中国の方が「あやとり」、韓国の方が「トントントンひげ爺さん」の手遊びを教えてくださいました。どちらも日本にある遊びですが、中国や韓国でも、同じように遊んでいるんですね。イギリスの方とは、日本でも馴染みの「♪Head Shoulders Knees and toes～♪」で楽しみました。

今年度も7月7日(土)、11月10日(土)の2回の開催を予定しております。

皆様の参加をお待ちしております！

帰国後もキラリ★青年海外協力隊

宮本 静枝 (みやもと しずえ) さん (佐世保市在住)

週末野菜もぎとり農園「彩園」代表



— きっかけは大学時代。進路に迷っていたときに… —

大学の農学部で研究をしていた宮本静枝さんは、卒業後の進路として、「農業に携わるべきか、研究を続けるべきか」悩んでいました。そんな中、開発途上国で活動するボランティア；青年海外協力隊に関心を持ち、世界を見つめ、自分を見つめることで、進むべき道を決めようと参加を決意。見事合格し、卒業後にフィリピンに稲作隊員として派遣されることになりました。

— フィリピンで最初のびっくり！活動先が…ない!? —

張り切って、任地ビゴール地方のリボン町に入った宮本さん。ところが、到着と同時に判明した配属予定のリボン町農業共同組合が解散したという事実！途上国ならではの「予想外」の出来事でしたが、自由に使える農地を貸し出してもらえることになり、気を取り直して現地の人たちと一緒に活動をスタートしました。

以前はとても几帳面だったという宮本さんですが、貧しくても明るく前向きに暮らす任地の人たちと活動する中で、少しずつ考え方が変わっていったと言います。たとえば、タニシ対策で田んぼに設けた網が一晩の内に持ち去られたとしても、「まあ、こういうこともあるか！」とすぐに次の手を考えるなど、大らかさと、課題をクリアするための柔軟な発想力が自然と身に付いていきました。

同期隊員からは「日本に帰らないんじゃないか」と思われるほど、心から任地に溶け込み、人々に愛される存在になっていた宮本さん。任期を延長し2年4ヶ月の活動後、ついに帰国となりました。

— 帰国後に見えてきた方向性。「食べ物は命」を実感する農園をオープン —

帰国後の進路を「農に携わる」と決めた宮本さんは、農業研修を受けた後、故郷、長崎に戻りました。自ら栽培した野菜や果物を販売する一方、旬でなくとも手に入る全国流通システムに危機感を抱くようになります。「いつでも農産物が手に入る便利さの陰で、命を頂くという気持ちが薄れているのでは…。」



自分の声と向き合う中でたどり着いた答えが、種蒔、収穫といった農体験はもちろん、そこで楽しく過ごしながら命に触れることができる畑づくり。野菜や花や人びとの想いで彩られた奇跡に出合える場所として、2009年に週末野菜もぎとり農園「彩園」がオープンしました。現在では、地元長崎だけでなく、県外からの来訪も増え、子どもから大人まで、たくさんの笑顔が咲いています。

— 彩園から、未来の私たちの課題を見つめて —

訪れる人はもちろん、地元農家の方々と信頼関係を育みながら、地域の中で大切な場所になっている彩園。「農村はフィリピンも日本も変わらないですね。人とのつながりが、とても大切な場所です。」と笑顔で話す宮本さん。優しい横顔からは、未来の食糧問題、農業の抱える課題を見据え、今、すべきことを見出した力強さも感じられます。彩園から広がる人の輪が大きくなることで、途方もなく大きな課題にも立ち向かえる。希望を胸に、宮本さんは今日も青空の下、畑に向かいます。

週末野菜もぎとり農園「彩園」

長崎県東彼杵郡川棚町新谷郷 電話：090-4527-0195

★もぎとり体験 ★野菜の栽培 MY畑 ★農のある暮らし相談 ★農空間レンタル(イベント・ピクニック可) ★ピザ焼き体験等…、会員制のもの、予約制のものがあります。

★詳しくは、彩園ホームページをご覧ください → sai-en.org <イベントも実施中！>